

2020 年度 事業計画

本学園は創立 100 周年を迎える。これまで 2017 年 2 月に中期方針を表明し、建学の精神に基づく将来的なビジョンを掲げた。そして、組織、事業、教育、業務の到達目標値を重要な経営指標 (KPI) として示し、5 年間の行動計画を策定した。しかし、その後、私大の入学定員管理の厳格化、東京 23 区内の定員増の抑制など、これまで本学園が挑んできた改革・改善の方策を再考する必要に迫られている。

先進国では少子高齢化が進み、日本の私学も激しい環境に置かれている。その中であっても、本学園は各部門が地道に努力し、積極的に教育と事務改革に取り組んできた。1988 年に海外キャンパス昭和ボストンを開校、2006 年にブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ昭和、そして 2019 年にはテンプル大学ジャパンキャンパスを迎え、グローバル人材育成の環境は整った。事業を支える財政基盤も充実されつつある。

そして、各部門のキャリア支援も充実した。大学の実就職率は 9 年連続全女子大学中 1 位を維持している。中高部では本科コースに加え、グローバル留学コース、スーパーサイエンスコースの 3 コース制を運営し。多様な進路に対応する支援体制も整備された。小学校の英語プログラムは日本の先進事例として知られている。働く親を支援することも園の教育・保育環境も地域から高い評価を得ている。

2020 年度の事業計画は、各部門の教育・研究環境を充実させ、国際的に高い評価を得る学園の姿を目指し、着実に結果を出すことを目標とする。

2020 年 3 月 19 日

学校法人昭和女子大学

I. 学園全体

A. 組織体制

業務の簡素化、新しい課題への取り組みなど、効率的かつ効果的な業務改善に務める。また、アンバランスな年齢構成を是正するために、教職員総数の抑制を図りながら優秀な人材を厳選して採用する。

1. グローバル

各部門でテンプル大学ジャパンキャンパス（以下、TUJ）およびブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ昭和（以下、BST）との連携を深め、教育効果やブランドイメージの向上を図る。

2. 大学教員組織

高齢化に対応し、役職への早期抜擢または新規採用等の人事配置を継続する。

3. 職員組織

今後5年間で学園の要となってきた多くの管理職が定年を迎える。円滑な世代交代が図れるよう、役職登用や人材育成を計画的に進める。

4. 附属校組織

① 今後10年間で小学校、中学・高等学校の常勤教員の約25%が定年を迎える。全国的な教職離れが進むなか、昭和教育の質を維持・発展させるために優秀な人材の採用と定着が図れるよう、こども園を含めて具体的な方策を検討する。

② 中学・高等学校では新校長を迎え、新たな組織を検討する。

5. 創立100周年の準備

全教職員が丸となり創立100周年記念事業の成功と、その後の目標課題の設定に取り組む。

B. 人事計画

1. 働き方改革

関連法令に基づき以下の通り対応する。

① 勤務管理システムの改修＝長時間勤務の抑制と健康の維持管理を目的に、全教職員や所属長が勤務状況を把握できるシステムを構築する。計画的な勤務の徹底を図り、法定範囲を超える長時間勤務に達する前にアラートを表示して早期に把握する。

② 職務内容に応じた処遇の見直しを検討する。

2. 人事評価制度

現行制度を検証し、より公正で貢献度を反映できる評価基準となるよう見直す。また、所属長と所属員が日常的に対話的なコミュニケーションを図り円滑な職場関係の構築と人材育成に務める。

C. 学園のグローバル化

TUJキャンパスの移転を機に、TUJやBSTなどとの交流機会を設けて学園全体のグローバル化を推進する。

1. 多様な文化との交流によるグローバル化

様々な国や文化、年齢の人々が集うダイバーシティ環境の中で、児童・生徒・学生・教職員・保護者が多様性を理解し、お互いに学び、協働するイベントを開催する。

2. 語学力向上

こども園・初等部・中高部・大学など学園の各部門で、語学力を高める教育を実践する。

3. 全学生・生徒・児童との交流

一体化したグローバルな環境を活用できるよう、クラブやプロジェクト活動など児童・生徒・学生の課外活動を推進する。

D. 昭和ボストン

学生の学力と学習意欲の向上に対応し、カリキュラムや授業内容に工夫を加える。

1. 上位学生の能力向上

海外協定大学への留学など、大学では昭和ボストン修了後の留学制度が充実してきた。より多くの学生がこれらを選択できるよう、学力上位層や意欲の高い学生の授業を見直し、語学力と高度な専門性を習得できる内容とする。

2. 学生の能力開発

カリキュラムの改善を図るとともに、全学生が高いモチベーションを維持できる学習環境を備える。

3. 協定大学の開拓

ボストン近郊の協定大学を開発し、昭和ボストン修了後の継続留学プログラムを充実させる。

4. 附属校各プログラムの充実

小学校、中学校のボストン研修について、年齢に応じたプログラムを開発する。

E. キャンパス整備

1. 施設設備の建築・改修計画（主な9件）

2020年度に計画する主な建設・改修は以下の通り。

- ① 正門通り 外構整備（第3期：9月完了予定）
- ② グリーンホール 内装改修工事（第3期：9月完了予定）
- ③ 中高2号館 エントランス改修工事（第2期：8月完了予定）
- ④ B8西棟 1階改修工事（9月完了予定）
- ⑤ 普通教室 アクティブラーニングに対応する机・椅子更新工事（9月完了予定）
- ⑥ B1 地下1階調理実習室改修工事（9月完了予定）
- ⑦ 国際交流センター 事務所拡張工事（4月完了予定）
- ⑧ B2 廊下内装改修工事（4月完了予定）
- ⑨ 東明学林寮室・望秀海浜学寮寮室他 空調・照明省エネ機器更新（2020年度中）

F. 経営基盤強化

外部資金など学納金以外の収入を獲得する具体策を検討する。

1. 外部資金獲得

科学研究費や委託研究費、プロジェクト研究助成金など外部資金を積極的に獲得し、事業収入の多様化に努める。

2. 寄付制度

- ① 理事長の諮問機関として100周年記念アドバイザリーボードを設置する。

- ② 100周年記念事業として、本学と取引のある企業等に広く寄付を呼びかける。
- ③ 卒業生には例年通り年2回の会報発送の際に「寄付のお願い」文書を同封し、協力を依頼する。
- ④ 寄付銘板の設置。(寄付金額別に称号を設ける)
- ⑤ 新たに記念講堂の改修を目的とした寄付を呼びかける。

3. 収入の多角化

校舎の賃貸事業など、現有施設を活用して安定した収入源を獲得する。

人見記念講堂の活用法、講座やイベントなどの収益事業の実施を検討する。

4. 経費管理

事務の簡素化・合理化を検討し、コスト意識を高めて効率的な経費支出を実現させる。

5. 財務データ活用

学園内外の経営環境を常に把握して的確に判断できるよう、財務データなどを活用して積極的に報告や提言を行う。

G. 保護者・卒業生・企業と連携

100周年事業の一環として、在学生・卒業生・一般の方で昭和女子大学の未来を考えるシンポジウムを開催する。

100周年を機に卒業生・同窓会との連携を強化するため、卒業式などのイベントに卒業後50年等の卒業生を招待することなどを検討する。

大学・大学院

A. 学部・学科・カリキュラム

各学科のストロングポイントや将来構想を意識して、カリキュラムの方向性を明確にしながら教員人事を計画する。学部・学科の設置計画の履行と併せ、開設科目の精選と社会の人材ニーズに即応したカリキュラムを編成する。

2020年度以降の主な取り組みは以下の通り。

1. 環境デザイン学部の開設

生活科学部を改組して、環境デザイン学部環境デザイン学科を開設する。家政学のイメージを払拭すると同時に、「デザイン」を切り口に現代の人・環境・社会が抱える課題を発見し、解決できる人材を育成する。

2. 将来構想

大学将来構想検討委員会の主導で、社会ニーズに対応した教育プログラムなどを検討する。2021年度からの社会人対象の大学院1年制コースの開設について準備を進める。

3. デジタルスタジオ・コワーキングスペースを開設

10号館1階にデジタルデザインスタジオを開設する。学生が個人またはグループで、自由にプロジェクト活動ができる場を用意する。また、教員や研究員、保護者など社会人も利用できるコワーキングスペースとし、学科や学年・年齢を越えた交流・協働を推進する。3Dスキャナーや3Dプリンター、大型プリンターなどで様々な物体をつくるラボも併設する。

B. 教育の質的転換

1. 学修時間の増加

学生の学修時間の増加を目的に、マップやツリーを活用してカリキュラムをスリム化、および教育課程の体系化として科目ナンバリングを整備し、計画的に学習できる環境を整備する。

2. シラバスの実質化

ディプロマポリシーと開設科目の関係がわかるよう、シラバスの掲載内容を見直して学生に周知することで体系的な履修を促す。

3. 教育方法

学生主体の教育法に取り組む。自主性や協働性を引き出す多様な講座を実践し、成果を検証して教育の改善につなげる。

4. 総合教育センター

担当副学長と学長補佐、総合教育センター長を中心に総合教育センター、一般教養科目、外国語科目の将来計画について検討する。

5. FD活動

3つのポリシーをふまえた全学的な取り組みとして、授業改善アンケート、FD研修会、授業公開などを実施し、各学科の専門分野を踏まえたFD活動を展開し、授業内容・方法を改善・向上させるための組織的な活動を推進する。

C. グローバル化の推進

1. TUJ との連携

グローバル推進委員会の中に昭和-TUJ ステアリングコミッティを組織し、相互の連携および学内への告知を推進する。

- ① TUJ との協働により効果的な教育プログラムを展開する。
- ② クラブ活動や Student Ambassadors' Club の活動を通して、学生間の交流による異文化理解の機会を提供する。

2. 留学・グローバル教育

これまでのグローバル化に関する取組の成果を踏まえ、多文化社会で活躍できる人材を育成するために以下の取組みと環境の充実に努める。

- ① 海外協定大学や TUJ など単位履修やダブルディグリーを習得する学生を増加させる。
- ② 国や地域の特性に応じて定めた外国人留学生の獲得方針に基づき、支援体制の整備と非正規留学生向けプログラムの充実に努める。
- ③ 昭和ボストンのサマーセッションや 15 週間プログラムについて、全学的に参加しやすい環境を整え、さらなる利用拡大を図る。
- ④ 海外協定大学との関係を深め、学生・教職員交流プログラムの拡充を目指す。
- ⑤ 留学前研修および帰国後研修など、留学の準備から帰国後のキャリアプラン形成までを見据えた一貫プログラムを開発する。

3. 昭和ボストン

学生の学力と学習意欲の向上に対応し、カリキュラムや授業内容に工夫を加える。

- ① より多くの学生が、海外協定大学や TUJ のプログラムに挑戦できるよう、学力上位層や意欲の高い学生向けの授業を見直し、語学力と高度な専門性を習得できる特別プログラム (American College Readiness Track) を強化する。
- ② カリキュラムの改善を図るとともに、全学生が高いモチベーションを維持できる学習環境を備える。
- ③ ボストン近郊の協定大学を増やし、昭和ボストン修了後の継続留学プログラムを充実させる。

4. 語学力向上

① 英語[英語系学科]

上位および中位の目標を定め、目標達成のための計画を立て検証する。

上位層の特待生プログラムなどを用意し、高度な語学力を持った学生を育成する。

② 英語[非英語系学科]

上位層の特待生プログラムなどを用意し、高度な語学力を持った学生を育成する。

③ 英語以外の言語

中上位および全体の目標を定め、目標達成のための計画を立て検証する。

D. 学習支援・キャリア教育

人生を生きぬく力を「夢を実現する 7 つの力」に示し、グローバル社会で自立し、役割を担える人材の育成を目標としてそれぞれの力を育成する。

1. 体系的キャリア教育

各学科のキャリアデザインポリシーに基づき、1年次から体系的なキャリア教育を実践する。社会人メンターからのサポート、昭和リエゾンセンターや現代ビジネス研究所でのプロジェクト、コミュニティサービスラーニングセンターを窓口としたボランティア活動など、正課内外の学習機会を充実させる。

2. オナーズクラス

全学のロールモデルとなる学生を育成するオナーズクラス・リーダーズアカデミーの Co-Creation Challenge を実施する。国連が掲げる「SDGs（持続可能な開発目標）」など、学生が地球規模の課題解決を考え、社会に触れ、社会に迫り、社会を変えるプログラムとする。

3. キャリア支援

就職活動・キャリア支援の個別相談体制を充実させ、学生の多様なニーズに対応する。

学生のインターンシップ先をさらに開拓し、質の高い情報を提供して就業体験の場を広げる。

引き続き就職活動を積極的に支援し、希望学生に対する就職率 100%と進路の質向上を目指す。

E. 研究活動の充実

1. 競争的資金採択率の向上

科学研究費などの競争的資金の採択率向上に資する取り組みを推進する。

2. 研究における負担の軽減

研究費の執行ルールの見直しや執行支援により、教員の事務的な負担軽減に努める。

3. 研究成果の情報発信

各研究所および教員の研究活動の積極的な情報発信に努める。

4. 研究倫理教育の推進

研究倫理向上のための教育・研修を教員、院生、学生に行う。

5. 研究推進

学術研究委員会主催の研究成果報告会を開催し研究活動の成果を学内に広く公開する。また、ライフイベントにより研究を中断した教員の復職支援助成金を創設する。

F. 外部との連携

1. 社会連携・社会貢献

企業や地域と協働する学生のプロジェクト活動を積極的に推進する。

自治体や企業等との包括協定・連携協定に基づく事業等を推進し、地域への貢献や課題解決に取り組む。

2. 共同研究・受託研究

企業や官公庁などのニーズに対応し、共同研究や受託研究を進める。

3. 世田谷プラットフォームの推進

本学を含む世田谷区にキャンパスを置く6大学と、世田谷区、区内産業界の3者が連携して形成する「世田谷プラットフォーム」の中長期計画の取り組みを推進する。

G. 学生募集

本学の入学難易度、志願者・入学者データを分析して入学希望者の質向上に取り組む。

本学独自の学部・学科のストロングポイントを明確にし、効果的な広報を展開する。

各種メディアを活用し、積極的な情報発信を行う。

高等学校や進学塾、大学入試関連企業との連携を深め、情報提供や意見交換を行い、本学の入試戦略に活用する。

A 日程試験で新たに導入する主体性評価による選考も含め、本学が求める素養を持つ入学者を選抜する選考方法を構築する。

II. 附属昭和中学校・高等学校

A. 教育改革

1. 中高部将来構想検討委員会

文科省「Society5.0に向けた人材育成」の方針を踏まえ、中高部将来構想検討委員会において教育改革を推進する。カリキュラム再編成、学校行事精選などを通して、主体性・自律性を備えた生涯学び続ける能動的学習者を育成する。

2. アクティブラーニング

認知的・倫理的・社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力を育成するために、授業にアクティブラーニングの手法を積極的・効果的に取り入れる。昨年度新設した教育研究担当を中心に探究学習を一層進化させ、教科横断型カリキュラムの開発を継続する。

3. ICT

2018年度から開始したBYOD(Bring Your Own Device)が今年度は6学年すべてに行き渡る。校務・学習支援プラットフォーム「Classi」をより一層活用しながら、授業や学習指導、保護者や生徒とのコミュニケーション、教員業務の効率化などを行う。

4. 教育力の見える化

非常勤を含めた教師全員が研究授業を実践し、生徒や保護者による授業評価・学校評価のアンケートを継続して行うことで教師の教育力の向上を図り、教育改革に継続的に取り組む。

B. 教育のグローバル化

1. 企画会議

企画会議を運営し、文部科学省グローバル事業実行委員会、ユネスコスクール推進委員会、ICT推進委員会などの組織を含め、中高部の全活動を統括・管理する。

2. グローバル留学コース

10か月間のカナダ留学から帰国したグローバル留学コース5年生の帰国後カリキュラムを展開する。4年生の英語は、現地高校のESLプログラムと連携しながら英語力の向上を目指す。

英語検定取得状況を基準に英語力を評価し、カリキュラムと授業内容を検証・検討する。3年次で全員2級取得を目指す。

3. スーパーサイエンスコース

一昨年度開設したスーパーサイエンスコースのカリキュラムに、STEAM (Science, Technology, Engineering, Art and Math) 教育の視点を取り入れ、授業内容の一層の高度化を図る。昭和女子大学や昭和大学などとの高大連携プログラムも活用しながら、将来理系分野で社会に貢献できる人材を育成する。

4. グローバル化と海外ネットワーク

キャンパスを共有するBSTやTUJとの連携を強化する。国内外のユネスコスクールと連携するとともに、提携校・協力校の拡充・連携強化を目指し、海外研修プログラムの高度化を図る。

C. 進路・キャリア支援

1. 多様な進路選択

本科、グローバル留学、スーパーサイエンス各コースのカリキュラムを活かし、幅広い分野に進学できる学力を定着させる。各学年に進路指導担当を配置し、習熟度別クラス編成などを通して、国公立大学や大学医学部など理系への進学支援を強化する。あわせて、教員による個別指導や外部リソースによる課外講座など、進路支援プログラムの一層の充実を図る。

2. 学習意欲と進学意欲の向上

1年生を対象として秋に学内研修を実施し、学習習慣の定着と進路意識醸成のプログラムを行う。中高6年間の学力向上ストーリーを描かせ、一人ひとりの着実な学力伸長とキャリア形成を支援する。

3. 生徒と学校全体の学力把握

外部試験や客観的テストの成績を生徒の進路指導に役立てる。また、学校全体の学力レベルを把握して教育改革を推進する。

4. 五修生制度

1年早く併設大学に進学する五修生制度により、中高大10年間で協定大学とのダブルディグリー・プログラムに参加可能であることを生徒に周知・奨励する。

5. 数値目標

中期方針の重要項目に設定されている進路・キャリア支援について、数値目標を定めて取組状況と達成度を中高部将来構想検討委員会で検証する。

D. 保護者連携

保護者による学校評価アンケート、授業参観での授業評価アンケートを引き続き実施する。個人面談など保護者が教育目標を理解する機会を増やし、生徒の成長を学校と家庭が連携して促進できる環境を整備する。「Classi」の有効活用により、保護者との日常的コミュニケーションを一層充実させる。SNSなどを活用し、日常的に学校生活の情報を発信する。

E. 生徒募集

中高部での学修で身につけた力が、将来のキャリアにどうつながるかストーリーを明確にして情報を発信する。

本科、グローバル留学、スーパーサイエンスの3コース制で生徒募集を行う。それぞれのカリキュラムの特長を示し、入学後に必要となる力を明確にする。

帰国生を積極的に受け入れることで学校の多様性を図る。

III. 附属昭和小学校

A. 教育・指導力向上

校務分掌の組織改編での改善点を見直しつつ、仕事量の公平化・効率的な業務運営を実現する。

初等部向けにカスタマイズされたコンピュータ教務システムを導入し、教務的事務の効率化を進め、教員の仕事軽減を図り、働き方改革を推進する。

完成したマルチメディア教室を活用し、アクティブラーニングを推進し、柔軟な学びの場を提供する。児童が携帯型端末を活用する授業を研究し、また、一部の教科でデジタル教科書活用についても検討する。

B. 児童の個性伸長

児童一人ひとりの個性や特性を、全教員がより深く理解するために発足した児童実態把握委員会の会合をカウンセラーも交えて月1回開き、必要に応じて保護者に関する情報も共有し、さらには公的外部機関とも連携して対策を講じる。また、個別対応の指導補助員の導入も検討する。

C. 広報・募集活動

東京私立初等学校協会主催の私立学校展を始め、学園内外で説明会を実施して教育・入試情報を発信する。新規受験者層の開拓を図るとともに、本校の特色・ストロングポイントを重点的に広報する。説明会参加者・入学予定者から情報を収集し、児童募集活動に活用する。

帰国子女の特設サイトに情報を掲載し、同時に積極的に説明会に参加する。また、海外で行われる説明会への参加も検討する。帰国子女編入試験は年2回、4月・9月編入学に合わせて実施する。

昭和こども園の家庭を対象とした内部説明会を早期に開催し、進学先として検討できる情報を提供する。

D. グローバル化

TUJ や BST との連携を密にし、ボランティア活動やインターンシップ、相互の教室訪問などの活動を活発に企画・実施する。

夏季ボストン研修に加え、冬季の海外研修を企画・実施し、海外で体験的に学ぶ機会を増やす。

E. 昭和教育の再確認

学園の建学精神に基づく初等部の教育を振り返り、学園創立 100 年を機に今後の方向性を再確認する。特に、働き方改革も踏まえつつ、教育効果を考えながら各種行事を見直す。

F. 施設等の活用

人生 100 年時代を迎え、健康寿命の基礎となる丈夫な体作りは必要不可欠である。屋上施設の安全整備、校庭周辺設備の整備を行い、遊びから体力づくりを促す。また、アフタースクールとの連絡を密にとり、校舎施設や校庭貸出しなどで協力する。

IV. 附属昭和こども園

A. 教育・保育

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に沿って園児の主体的な活動を確保し、園児一人ひとりの行動の理解と予測に基づき計画的に環境を構成する。

0歳児から小学校就学前まで一貫した教育・保育を、園児の発達や学びの連続性を考慮し展開していく。体育、音楽、ダンス、ICTなど、多様な活動の機会を提供する。

「教育・人材育成プロジェクト」を中心に、より良い教育・保育を実践する保育教諭の育成を策定する。

「こども環境あそびプロジェクト」を通して、「あそび」から生まれる学びを追求していく。

「English Project」を中心に、グローバル化が進む世界に羽ばたく人材となる基礎を養い、2歳児から小学校就学前までの一貫した英語との関わる環境を整備する。

「音楽プロジェクト」を中心に、乳幼児期にふさわしい音楽体験を提供するとともに、5周年記念イベントを計画し、音楽を通して園の活性化につなげる。

「からだづくりプロジェクト」を中心に、子どものこころとからだの育成を図る。

B. 地域貢献

地域に向けた子育て支援活動をさらに充実させると同時に、地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができる機会を確保する。

世田谷区の「乳幼児を対象とした文化・芸術体験事業」の研究・検証に協力する。

C. 異年齢交流

こども園から大学院までがひとつのキャンパスにあることのメリットを最大限に生かし、施設の垣根を越えた交流を実現する。

① 初等部との連携

年長組と1年生の交流（英語・音楽・小学校探検など）

年長組と5年生の交流（昭和っこの運動会への参加）

年中組と4年生の交流（小学校探検など）

乳児組と6年生の交流（乳児保育体験など）

② 中高部との連携

サービスマーケティングの積極的な受け入れ（年間8回）

保育実習の受け入れ（年間100人）

③ 大学・大学院との連携

実習生の受け入れ（年間12人）・学生のアンケート調査研究への協力（年間8件）

学生の授業の一環としての交流（随時）

④ BSTとの連携

保育実習インターンシップの受け入れ（随時）

⑤ TUJとの連携

インターンシップの受け入れ

⑥ 駒沢パークインターナショナルスクールとの連携（相互で協議）